

【絵画の部】 応募点数 108点

- 1 土清大賞 新町小4年2組(新町小4年)「津が生んだ土清さん」
2 三重県知事賞 板崎真依(嬉野中2年) 3 三重県教育長賞 橋本知直(西橋内中1年)
4 津市長賞 秦 昂大(朝上小5年) 5 津市教育長賞 伊藤来実(白塚愛児園—5歳)[ことすがさん]

- 特選** 塩崎真央(新町4) 堀 礼人(榊原4) 奥野愛加里(白塚愛児園—5歳) 秦和暉(朝上3) 小原知恵(育生4)
入選 伊藤万里奈(西が丘4) 前川あおい(西が丘4) 有川かな(西が丘4) 南條朱音(西橋内1) 藤真穂(西橋内3)
三谷夏希(西橋内2) 金丸周正(西橋内1) 塚本悠太(西橋内1) 新町小4年1組(新町4)
新町小4年3組(新町4)

◎絵画の部講評 谷岡経津子さん(顧問・四日市大学教授・日展洋画会友)

まず、土清大賞は文句無く全員一致で決まりました。新町小4年2組の合同作品です。周りに玉虫の羽色のようなキラキラ光る色を使い、その中に土清さんがいらっしゃるというコラージュ的な作品で、みんなのアイデアが生きていると思いました。知事賞の板崎さんの作品は、肖像画中に著作や旧宅があり、ストーリー性がある作品。白塚幼稚園児の「ことすがさん」は、先生のお話を聞いてイメージを自由に膨らませたとされるかわいい股旅姿のことで、ユニークです。また、津市長賞の秦くんの作品はピカソ風で顔を色面で表現していて、県教育長賞の橋本さんのは、まとまった作品ですね。

今回は団体作品を入れると、百十数人の参加があったことという評価をしたいと思います。(談話)

【作文の部】 募集は小学校4年以上中学生まで、応募数 26点

- 1 土清大賞 片山優史(西が丘小5年)「土清が残した物」
2 三重県知事賞 堀内啓介(附属中1年)「和訓栞について」
3 三重県教育長賞 高橋芙実(西が丘小4年)「50音順の国語辞典を生んだ谷川土清」
4 津市長賞 永田和寛(附属中1年)「谷川土清という時間」
5 津市教育長賞 伊藤恵理子(西橋内中3年)「谷川土清について」

- 特選** 井上翔太(附属中1)「谷川土清」 木佐貫蘭(養正5)「土清が歩いた昔の道」
入選 庄村 悠(南立誠4)「谷川土清と和訓栞」 福井涼太(上野4)「谷川土清」
国森真菜美(西橋内1)「偉人 谷川土清」

◎作文の部講評 竹内 令さん(会員・作家)

5人の審査員が、いくつもの観点を決め、時間をかけて審査しました。応募数は予想より少なかったものの、質の高さに審査員一同満足しました。小学校への出張講座や夏休みの親子洞津谷川塾など、十年続けた啓発活動の効果がじんわりと染みこんでいることを見届けた思いです。殊に入賞作品からは、基礎学問の大切さに目覚める様子や、研究を楽しむことへの共感が感じとれました。これこそが土清顕彰の目的です。今回の作品を書く中で生まれた疑問も、このままにせず追究して行ってほしいと思いました。

【短歌の部】 常磐井猷麿 選(一般)

- | | | |
|-----------|------------------------------|-------|
| 1 土清大賞 | 蘭学を学びし谷川土清の『和訓栞』に珈琲が出づ | 奥田 榮子 |
| 2 三重県知事賞 | 神ながらとかく疎みし身の老いてをろがむ心授けたまふか | 園田 雅子 |
| 3 三重県教育長賞 | 西国の三十三番朱印帳三カ所残して父の逝きたり | 行方すみ子 |
| 4 津市長賞 | 就職をした時買った国語辞典古びた今もなお持ち歩く | 橋倉久美子 |
| 5 津市教育長賞 | 狸庵にて茶の湯一服飲みし日を秋の夢路にたどるうれしさ | 馬場 幸子 |
| 佳作(入選) 4点 | 秋晴れに並べ干したる冬座布とん母が着てゐし銘仙もある | 河村ツタ子 |
| | 市井にてその身を削り追い求め遠き御祖の心を明かす | 内山 政美 |
| | 街道の傾ぐ祠の野の仏面長の顔穏やかに笑ふ | 藤生 敏子 |
| | 奥入瀬の数ある滝をめぐり来て夕暮れ迫る「であい橋」に立つ | 池永 惇子 |

◎短歌の部講評 常磐井猷麿さん(高田本山専修寺法主・歌人)

応募が32点と少なく、殊に男性の作に見るべきものが無かったのは残念であった。

第一席は、「和訓栞」に目を通しての発見・驚きであり、土清の先進性をも示していて遺憾がない。今回はこの作を得たことで満足した。二、三席の敬虔な思い、四席の辞書への関心、五席の土清の茶席への思い、それぞれ共感できる。佳作四首ものびのびと楽しい。